

【安全な1日摂取目安量の上限値】

日本人には、豆腐や納豆、味噌等の伝統的な大豆食品の食生活の経験がありますが、大豆イソフラボンのアグリコンのみを濃縮した健康食品等の食経験はありません。大豆イソフラボンはパーシャルアゴニスト作用の有用性があると同時に、成分を濃縮した健康食品等では、乳癌の発症や再発リスクを高める可能性も否定できないため、有効性と安全性は確立されていません。

そこで、長期摂取の安全性を懸念し、安全な1日摂取目安量の上限値（アグリコン換算値）が以下のように設定されています。

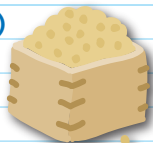
（閉経前・閉経後の女性、男性）

大豆イソフラボンの安全な1日摂取目安量の上限は70～75mg/日。

特定保健用食品（トクホ）として摂取する大豆イソフラボンの安全な1日上乗せ摂取量の上限は30mg/日。

（妊婦、胎児、乳幼児、小児）

特定保健用食品（トクホ）として日常的な食生活に上乗せして摂取することは推奨できない。



【摂取に注意が必要な人】

使用する前に、必ず薬剤師に相談しましょう。

妊婦：大豆イソフラボンには弱いエストロゲン様作用があるので、胎児の発育に影響を及ぼす可能性があります。

授乳婦：ヒトで母乳中に移行することが報告されています。乳幼児への影響は明らかではありません。

乳癌患者・家族歴のある人：乳癌等の女性ホルモンに関与する癌のリスクを上昇させる可能性があります。

お薬に関する問い合わせがあるとき

くすり なんでも テレホン



092-271-1585

（月～金 9:00～17:30 土 9:00～12:00）

福岡県薬剤師会薬事情報センターでは、一般の方のご質問を電話で受けています。くすりの使用方法や取り扱い方などに関する質問をおよせください。

子どもさんが誤って化粧品など食べ物でないものを、飲んだり食べたりした場合の対処方法についても受け付けます。実際の診療に関わる内容については、かかりつけの医療機関、主治医にお問い合わせ下さい。

「薬事情報センター」のホームページ

知っていますか？
くすりの正しい使い方
読むおクスリ

当センターに寄せられた
質疑応答をご紹介
質疑応答

新薬・報告品目情報
医薬品情報

消毒薬の使い方をご紹介
消毒薬一覧

くすりに関するご質問に
お応えしています
くすりQ&A

副作用等が防止できた
事例をご紹介
相談事例

コンテンツいっぱいの当ホームページへ
ぜひアクセスしてみてください。

福岡県 薬事情報センター

<http://www.fpa.or.jp/johocenter/yakuji-main.html>



公益社団法人福岡県薬剤師会
薬事情報センター

FAX 092-281-4104 E-mail f-pic@fpa.or.jp

月～金 9:00～17:30 土 9:00～12:00

Vol. 7

健康食品の正しい知識で健康ライフ

上手に使おう
健康食品



今回のテーマ

大豆イソフラボンと
医薬品の飲み合わせ

公益社団法人福岡県薬剤師会
薬事情報センター

TEL 092-271-1585

大豆イソフラボンと 医薬品の飲み合わせ

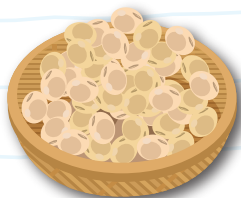
? 大豆イソフラボンとは

イソフラボンはフラボノイドの一種で、特にマメ科植物に多く含まれます。女性ホルモンのエストロゲンに構造が類似し、女性ホルモンのように作用するので（エストロゲン様作用）、フィトエストロゲン（植物女性ホルモン）と呼ばれています。大豆にはイソフラボンが0.1～0.3%含まれ、特に胚芽に多く含まれています。特定保健用食品（トクホ）として、「骨の健康が気になる方の食品」の表示が許可された商品があります。



はたらき

弱いエストロゲン様作用、抗エストロゲン作用、コレステロール低下作用、抗酸化作用、骨量減少抑制作用等が報告されています。エストロゲンが少ない時はエストロゲン様作用を示しますが、逆に多い時はその作用を抑制する抗エストロゲン作用が現れます（パーシャルアゴニスト作用）。ホルモン依存型の乳癌や前立腺癌に予防効果があるともいわれていますが、確立はされていません。



大豆イソフラボンと

医薬品との飲み合わせは？



医薬品の作用に影響を及ぼすことがあります。

※健康食品は医薬品ではないので、病気の治療を目的に使用しないようにしましょう。

医薬品名(主な商品名)	医薬品への影響
卵胞ホルモン 経口避妊薬等	
選択的エストロゲン修飾薬 (SERM) ラロキシフェン（エビスタ TM 等） バゼドキシフェン（ビビアント TM 等）	相互作用は明らかではないが、薬の作用に影響を及ぼす可能性がある。 ¹⁾
抗乳癌薬 タモキシフェン（ノルバデックス TM 等） トレミフェン（フェアストン TM 等）等	効果が減弱する可能性がある。 【報告】 ²⁾ アグリコン型大豆イソフラボンのゲニステインで、ホルモン依存型乳癌に対するタモキシフェンの効果が減弱した（動物実験）。
抗癌薬 パクリタキセル（タキソール TM 等）	AUCやCmaxに影響を及ぼす可能性がある。 【報告】 ³⁾ アグリコン型大豆イソフラボンのゲニステインを経口投与30分後に、パクリタキセルを経口投与または点滴静注すると、経口投与ではAUC、Cmax、バイオアベイラビリティ（生物学的利用率）が、点滴静注ではAUCが増加した（動物実験）。
催眠鎮静薬 ミダゾラム（ドルミカム TM 等）	AUCやCmaxが減少する可能性がある。 【報告】 ⁴⁾ 健康成人男性18名（18～30歳、中国）。アグリコン型大豆イソフラボンのゲニステインを1日1,000mg、14日間摂取し、15日目にミダゾラム7.5mgを投与すると、投与後36時間までのAUCが143ng・h/mLから126ng・h/mLに、Cmaxが48ng/mLから36ng/mLに減少した。

〔文献〕1) 「健康食品」の安全性・有効性情報ホームページ
2) Ju YH et al.:Cancer Res.62(9),2474,2002.
3) Li X et al.:Int J Pharm.337(1-2),188,2007.
4) Xiao CQ et al.:Xenobiotica.42(2),173,2012.

AUC：血中濃度時間曲線下面積 Cmax：最高血中濃度

【大豆イソフラボンの種類】

多くの大豆イソフラボンは、糖と結合した配糖体として存在していますが、腸内細菌の持つ酵素で切り離され、アグリコンの形（図）になって体内に吸収されます。大豆イソフラボンの製品には、配糖体型とアグリコン型の2種類があります。

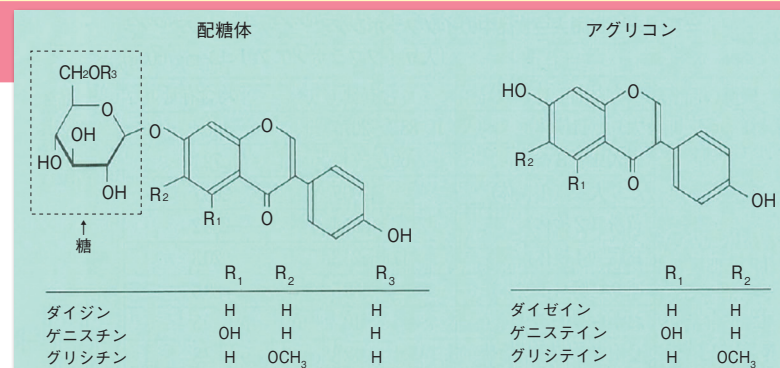


図 大豆イソフラボンの構造式